

# 2015年3月期 上期 決算概要

---

テルモ株式会社

上席執行役員 IR、広報室担当

北畠 一明

2014年11月5日

# 決算ハイライト

---

## 全社

- 薬価・公定価改定の影響を吸収し、増収増益を確保

## 心臓血管

- 海外カテーテル・ニューロが二桁伸長、公定価による国内減収を吸収
- Ultimaster(新DES)を欧州に加え、アジア・中南米へ拡大中

## ホスピタル

- 消費税の引き上げ、医療保険制度の改定などにより受診抑制の動き
- 基盤医療器を中心とした原価改善を推進

## 血液

- 厳しい市場環境が続く中、増収増益を維持
- 血液自動製剤システムやアフレスिस治療が海外で継続伸長

# 增收増益、営業利益 8%増

(億円)

	13年度 上期	14年度 上期	増減率	為替除く
売上高	2,260	2,333	+3%	+0%
粗利益	1,172 (51.8%)	1,229 (52.7%)	+5%	+1%
一般管理費	714 (31.5%)	763 (32.8%)	+7%	
開発費	153 ( 6.8%)	136 ( 5.8%)	-11%	
営業利益	305 (13.5%)	330 (14.1%)	+8%	+3%
(のれん等償却除く)	385 (17.0%)	413 (17.7%)	+7%	+3%
経常利益	296 (13.1%)	340 (14.6%)	+15%	
純利益	195 ( 8.6%)	219 ( 9.4%)	+12%	

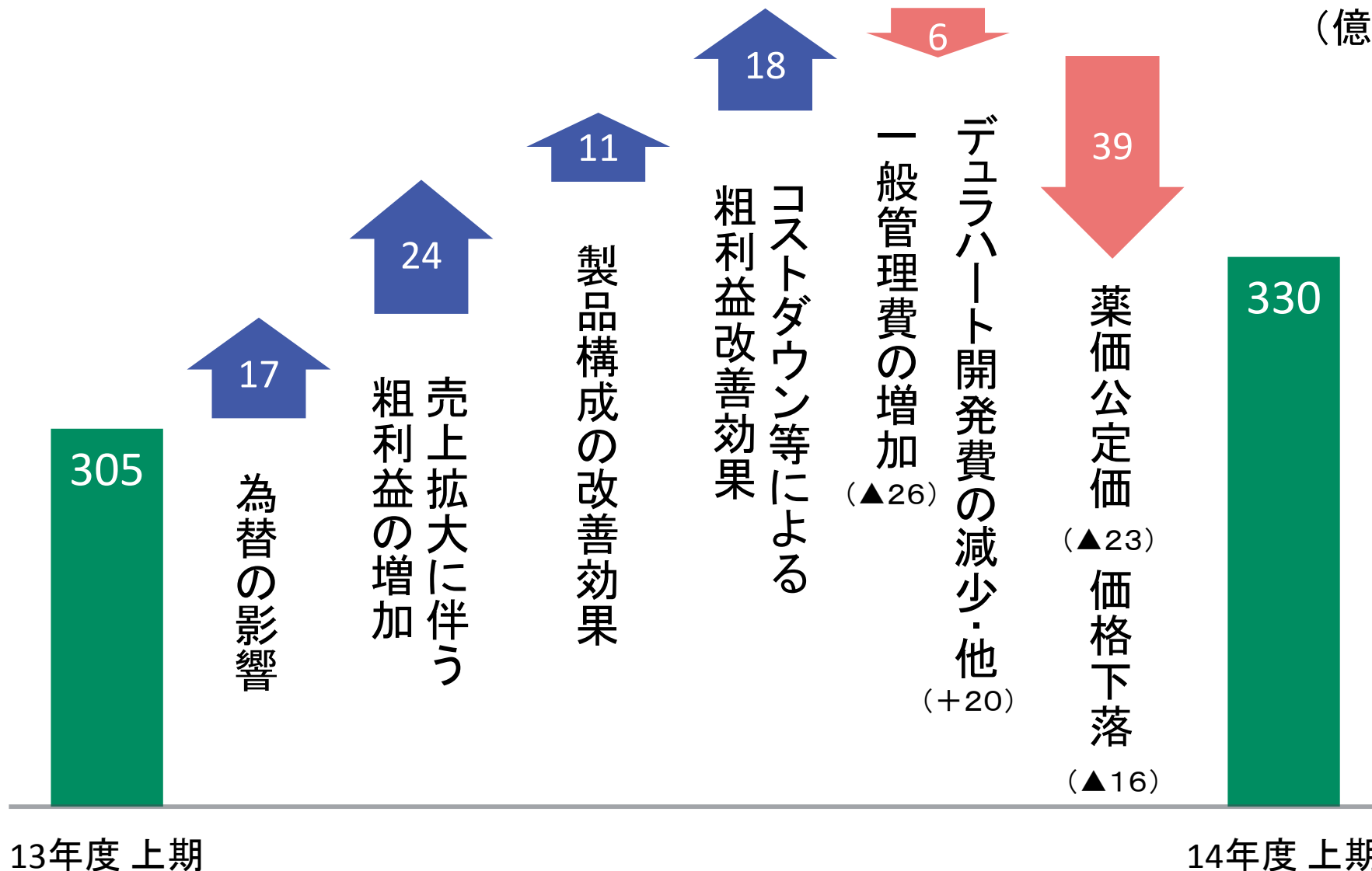
期中平均レート

US\$ 99円  
EUR 130円

103円  
139円

# 営業利益増減分析

(億円)



# 地域別売上高：海外好調、中国は流通再構築中

(億円)

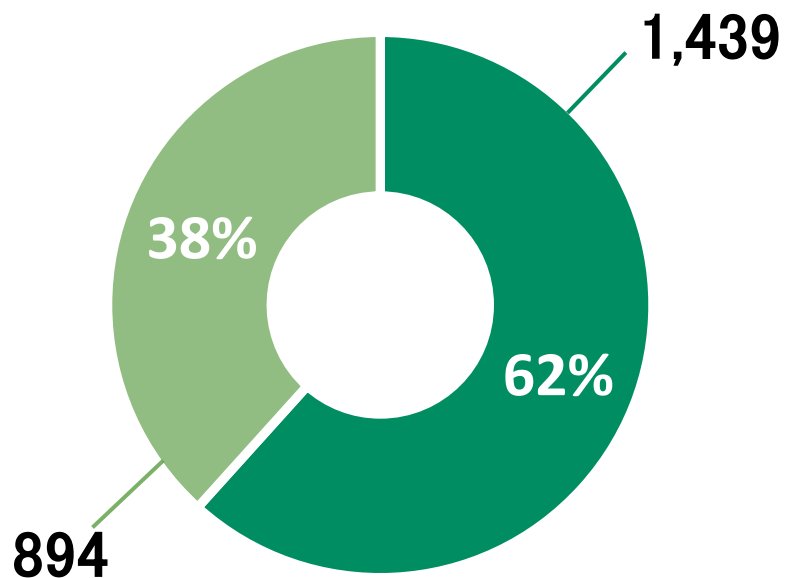
連結：+3% (+0%)

13年度 14年度  
上期 上期

( )内は為替影響除く

日本  
-4%

海外  
+8% (+3%)

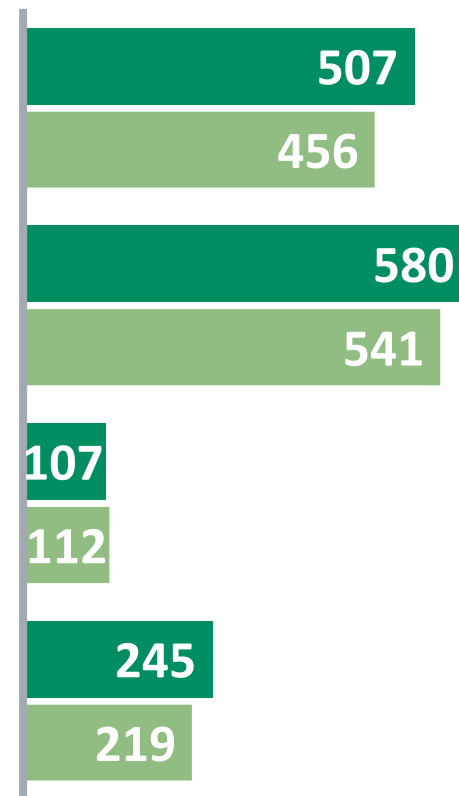


欧州  
+11% (+4%)

米州  
+7% (+3%)

中国  
-5% (-8%)

アジア他  
+11% (+8%)



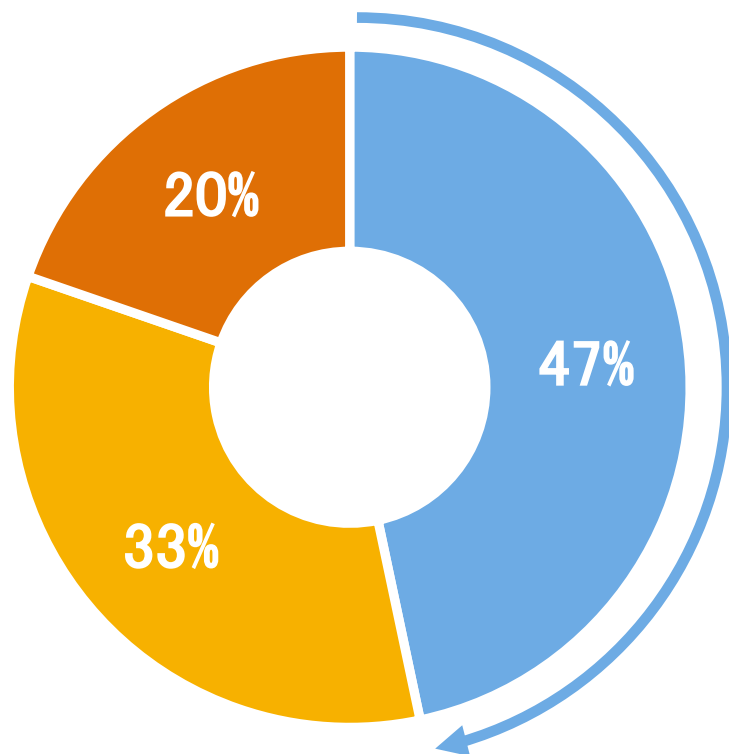
# カンパニー別売上高

(億円)

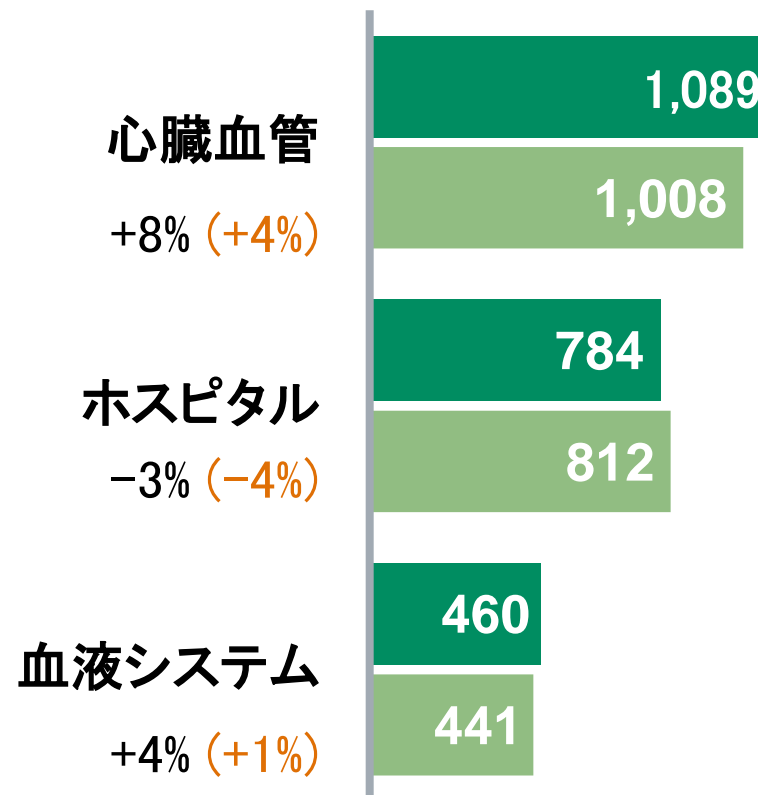
- 心臓血管
- ホスピタル
- 血液システム

13年度 14年度  
上期 上期

( )内は為替影響除く



心臓血管が47%へ増加 (FY13上期 44.6%)



# カンパニー別事業利益

(億円)

		13年度 上期	14年度 上期	増減率	為替除く
事業利益	心臓血管	201 (20%)	215 (20%)	+7%	-1%
	ホスピタル	109 (13%)	96 (12%)	-12%	-13%
	血液システム	89 (20%)	93 (20%)	+4%	+0%
	その他※	-14	9	-	-
営業利益 (のれん等償却除く)		385 (17%)	413 (18%)	+7%	+3%

※ その他：カンパニーに直接関連しない項目  
13年度(デュラハート開発費等)、14年度(本社部門費削減効果等)

# 心臓血管カンパニー：増収増益を達成

(億円)

	13年度 上期	14年度 上期	増減率	為替除く
売上高	1,008	1,089	+8%	+4%
事業利益(率)	201 (20%)	215 (20%)	+7%	-1%

## <売上面>

- 海外カテーテルやニューロ製品(ステント等)の売上伸長 +68億
- 欧米を中心にCV製品(人工肺やモニターなど)が伸長 +17億
- 公定価改定の影響 ▲19億

## <利益面>

- IS事業を中心とした原価改善効果 + 6億
- Ultimaster(新DES)を欧州に加えアジア・中南米へ拡大中



# ホスピタルカンパニー: 市場環境変化により減収減益

(億円)

	13年度 上期	14年度 上期	増減率	為替除く
売上高	812	784	-3%	-4%
事業利益(率)	109 (13%)	96 (12%)	-12%	-13%

## <売上面>

- 国内: 消費税引き上げの反動、医療市場の環境変化等 ▲17億
- 米州: 基盤医療器の低収益ビジネス見直し ▲7億
- 薬価・公定価改定の影響 ▲4億
- 欧州: 製薬向けB2B事業が二桁伸長 +5億

## <利益面>

- 基盤医療器を中心とした原価改善効果 +5億

# 血液システムカンパニー：厳しい環境下、増収増益

(億円)

	13年度 上期	14年度 上期	増減率	為替除く
売上高	441	460	+4%	+1%
事業利益(率)	89 (20%)	93 (20%)	+4%	+0%

## <売上面>

- アフェレシス治療が海外で二桁伸長 +9億
- 血液自動製剤システムがグローバルで二桁伸長 +13億
- 米国：医療費削減を背景とした価格圧力の影響 ▲4億

## <利益面>

- 売上状況に応じた収益マネジメントを実施

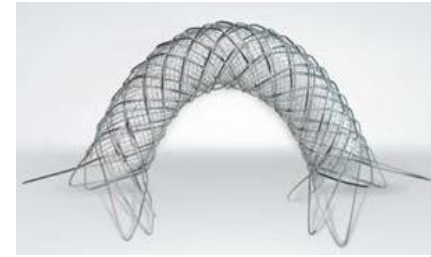
# 14年度上期 ローンチ済み製品

領域	製品		地域
心臓	新DES(自社開発)	◎◎★	欧・南米・亜
ペリ フェラル	皮下植え込み型 薬液注入システム		日
	肝動脈化学塞栓術 オクリュージョンマイクロバルーン	★	日
アブレーション	腎除神経カテーテル		亜・南米
	TRI腎除神経カテーテル		亜・南米
脳	頸動脈ステント	★	欧
輸液 システム	閉鎖式輸液システム	◎	日
	閉鎖式抗がん剤 投与システム		日
栄養	逆流防止型流動食	★	日

◎ 業績貢献 大  
★ イノベーション度 高



新DES (Ultimaster)  
★柔軟性と独自の  
コーティング技術



頸動脈ステント (CASPER)  
★プラーク剥離を抑制  
し脳梗塞防止を期待



オクリュージョンマイクロバルーン  
(アテンダントネクサス)  
★より末梢の血管で  
肝動脈化学塞栓術  
が可能に



逆流防止流動食  
(マーメッド)  
★胃に入ると固まる、  
逆流防止を期待

# 下期の取り組み

# 下期へ向けた主な取り組み

---

## ■引き続き収益性改善に向けた取り組みを強化

## ■売上の巻き返し

- 心臓血管：IS・ニューロ新製品投入、既存品（主にアクセス）拡大
- ホスピタル：ポンプ・輸液剤の拡販、新血糖計投入によるチップ拡大
- 血液システム：血液自動製剤システム及びアフエレシス治療の拡大

## ■収益状況に応じた販管費の投下、開発のスピードアップ

# 14年度下期 ローンチ予定の製品

領域	製品		地域
心臓	新PTCAバルーン	◎	欧・南米・亜
ペリフェラル	PTAバルーン(膝上・膝下)		日・欧・米
	ステント細径化(Misago)		欧
脳	コイルアシスト・ステント	◎	米
	脳梗塞治療デバイス	◎★	欧
	液体塞栓剤(脳血管)	★	欧
輸液システム	閉鎖式輸液システム		亜
DM	血糖測定システム(カラー液晶)	◎	日
血液システム	成分採血装置(血漿)		日
	血液自動製剤システム	★	日
	血液治療装置(顆粒球・骨髄幹細胞)		米

◎ 業績貢献 大

★ イノベーション度 高



脳梗塞治療デバイス(ERIC)

★独自のケージ連結型で、  
効率的な血栓除去を期待



液体塞栓剤(PHIL)

★世界初、開封後すぐ使える  
プレフィルドタイプ

# 通期業績予想：後発事象を考慮し純利益を下方修正

(億円)

	通期業績予想	今回修正	増減	増減率
純利益	375	335	-40	-10.7%

想定期中平均レート：US\$ 100円、EUR 140円

## <修正理由>

2014年10月23日に開示した「欧州のホスピタル事業ポートフォリオ改革」に伴い、64億円の特別損失を第3Qに見込む

# 参考資料



# 事業別 地域別売上高と伸長率(上期)

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	235 (-3%)	854 (6%)	317 (6%)	356 (8%)	83 (-9%)	100 (15%)	1,089 (4%)
うちカテーテル※	181 (-4%)	634 (7%)	250 (7%)	232 (11%)	77 (-10%)	76 (11%)	816 (4%)
ホスピタル	599 (-4%)	185 (-4%)	60 (1%)	37 (-19%)	7 (19%)	80 (-1%)	784 (-4%)
血液システム	60 (-4%)	400 (1%)	131 (2%)	187 (-1%)	17 (-8%)	65 (10%)	460 (1%)
合計	894 (-4%)	1,439 (3%)	507 (4%)	580 (3%)	107 (-8%)	245 (8%)	2,333 (0%)

※ニューロバスキュラー事業含む  
( )内は為替影響除く対前年同期伸長率

# 販管費

(億円)

	13年度 上期	14年度 上期	増減	増減率
人件費	313	339	+26	+8%
販促費	70	76	+6	+8%
物流費	54	53	-1	-2%
償却費	109	119	+10	+8%
その他	168	176	+8	+6%
一般管理費計	714 (31.5%)	763 (32.8%)	+49	+7%
研究開発費	153 (6.8%)	136 (5.8%)	-17	-11%
販管費合計	867 (38.3%)	899 (38.6%)	+32	+4%

( )内は対売上高%

# 販管費

(億円)

	13年度 上期※	14年度 上期	増減	増減率
一般管理費計	737	763	+26	+4%
研究開発費	156	136	-20	-13%
販管費合計	893	899	+6	+1%

※為替の影響を除いた換算値

# 四半期の動き

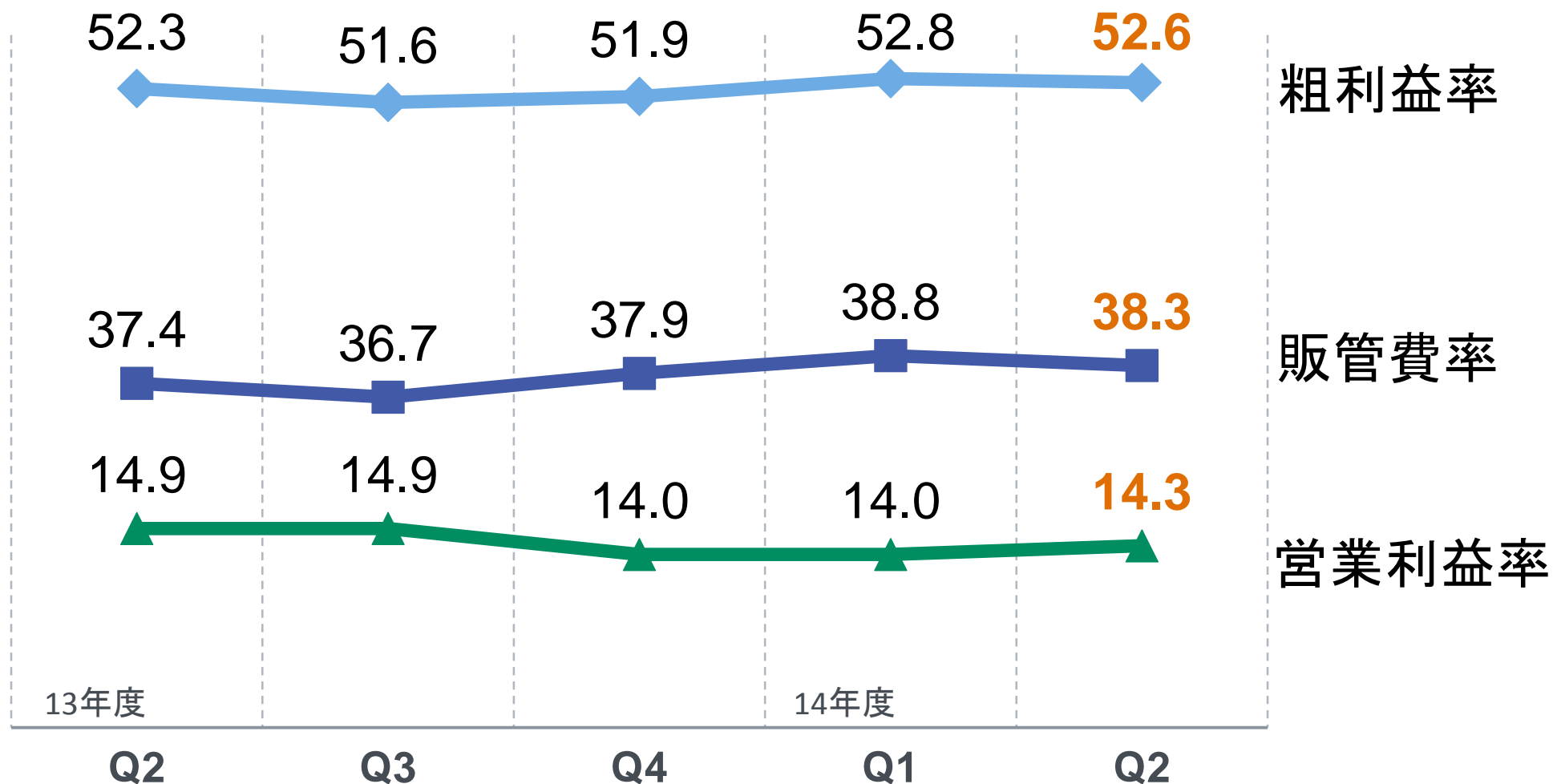
(億円)

	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	14年度 Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)
売上高	1,149	1,192	1,221	1,149	1,184
粗利益	601(52.3%)	615(51.6%)	633(51.9%)	607(52.8%)	623(52.6%)
販管費	430(37.4%)	437(36.7%)	463(37.9%)	446(38.8%)	454(38.3%)
営業利益	171(14.9%)	178(14.9%)	170(14.0%)	161(14.0%)	169(14.3%)

期中	US\$	99円	100円	103円	102円	104円
平均レート	EUR	131円	137円	141円	140円	138円

# 粗利益率、販管費率、営業利益率

(%)



(各四半期の3ヶ月単位)

# 設備投資と研究開発費

(億円)

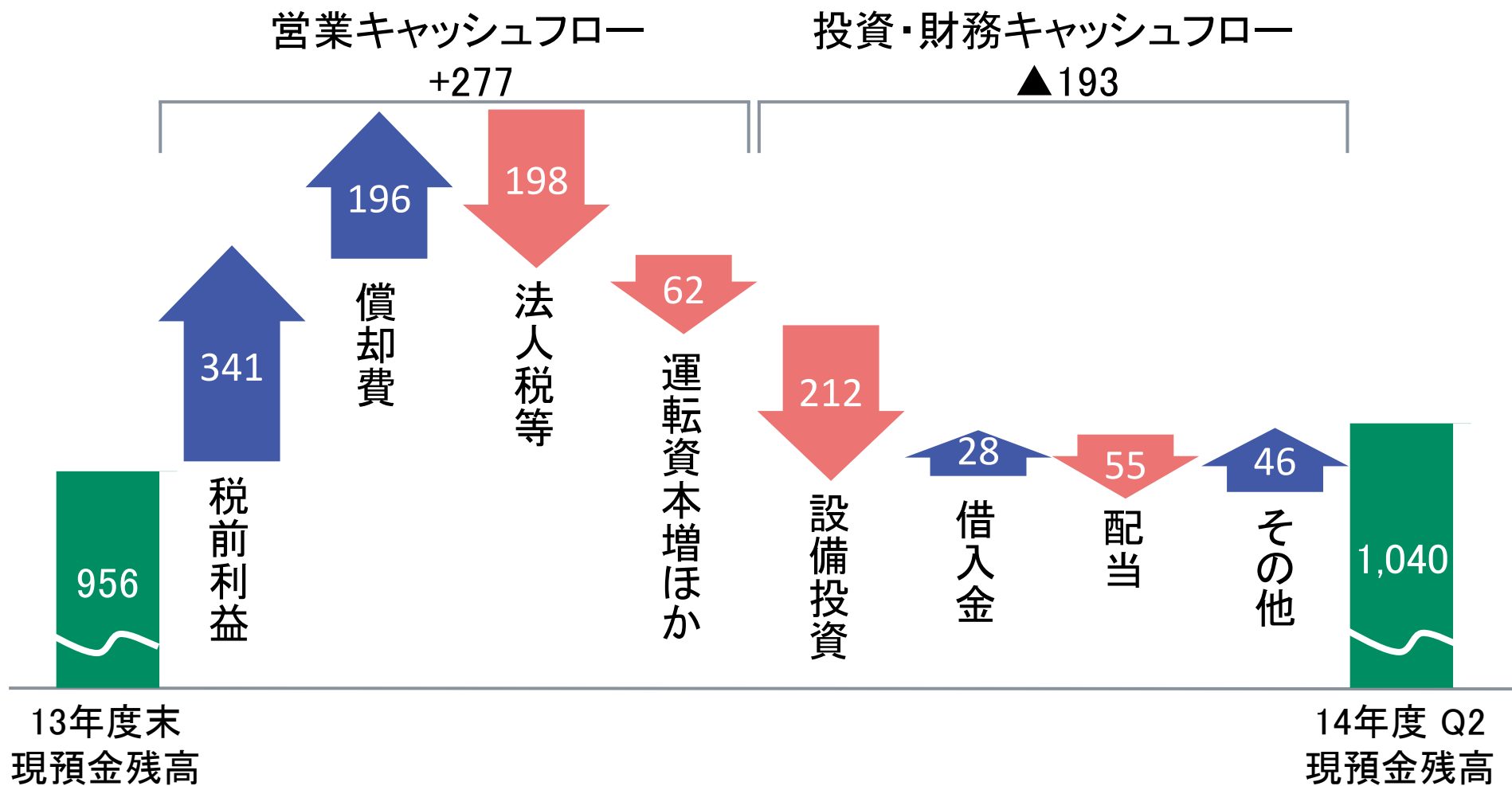
	14年度見通し	上期実績	進捗率
設備投資	420	212	50%
償却費※	410	196	48%
研究開発費	310	136	44%

※のれん・無形資産含む、設備投資は取得ベース

# キャッシュフロー

- Q1での法人税負担あるが営業キャッシュフローは順調に回復
- 設備投資はほぼ計画通りの進捗
- 2015年3月にSB400億円償還予定

(億円)



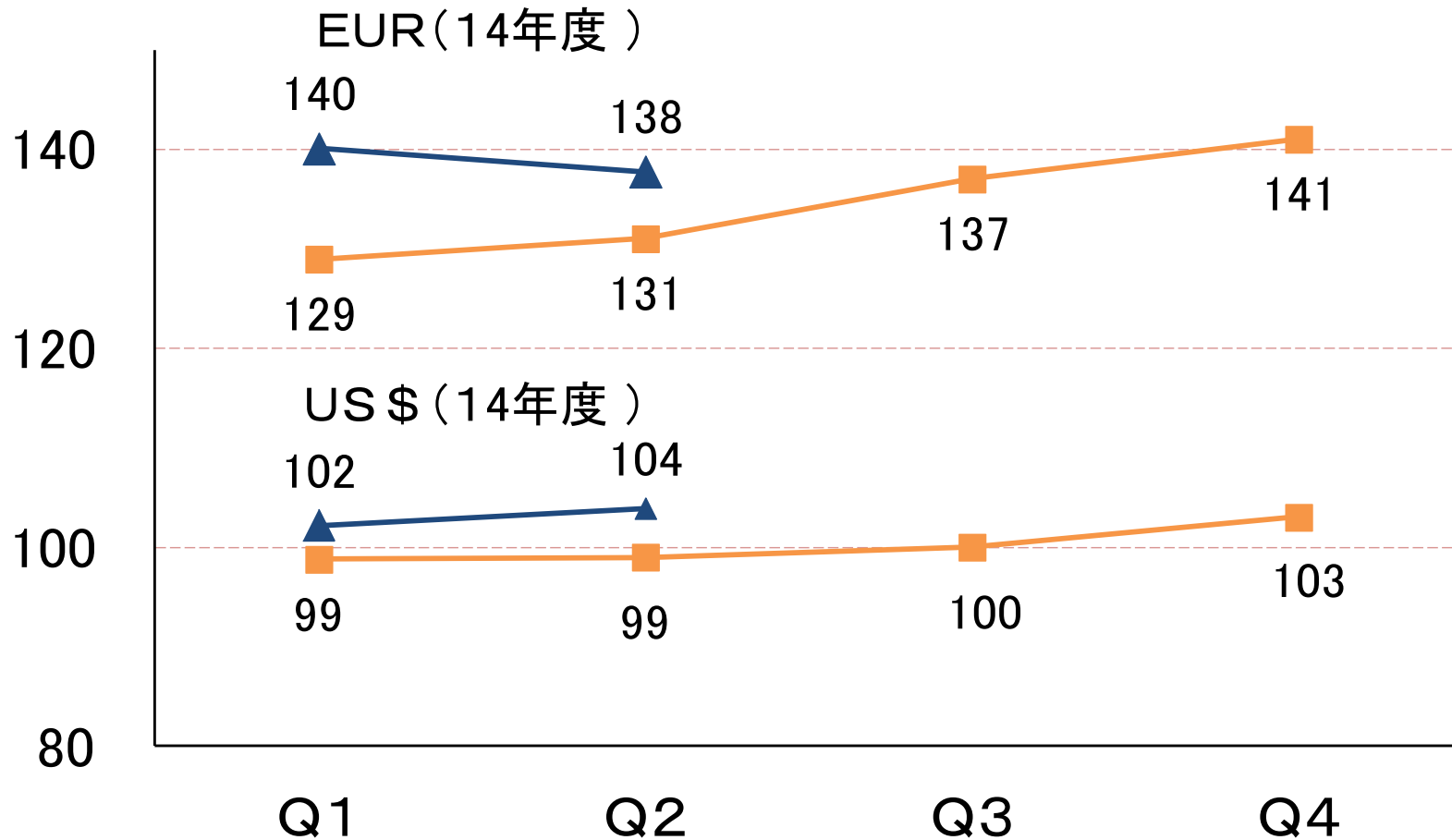
# 為替感応度

(億円)

	ドル	ユーロ
売上高	18	7
営業利益	3	4



# 四半期平均為替レートの推移



(各四半期ごとの期中平均レート)

# おことわり

---

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。